

学校全体での個人探究の推進を通じた児童と教員の認識の変容

児童スポーツ教育学部
特任助教 豊田 大登
2026.04

概要

学校組織全体で個人探究に取り組む事例に着目し、個人探究を経た児童の探究の学習過程に対する認識や教員の職務や役割、負担に対する認識等に関する調査を実施した。

H小学校の児童と教員を対象とした質問紙調査の結果から、H小学校の教員が他校の個人探究の事例から受けた刺激に基づきH小学校での個人探究の設計と実践に試行錯誤を重ねながら取り組んだ結果、児童は探究プロセスの各学習過程に対する認識が深まったり、高い状態が維持されたりしていることが明らかになった。また、児童と教員が授業の内容や進め方を一緒に決め対等な立場で進める授業などが多くなるなど、教員の授業に対する意識が変容していることが示唆された。

これらの結果から、教員の授業観・学習観の転換をするためには個人探究のような児童主体の授業を教員自身が体験していくことが必要であり、そのための参考となる他校の事例やそこから受ける刺激についての重要性等について論じている。

論文情報

掲載誌：日本教育工学会論文誌 49巻, 4号, p. 719-736

タイトル：学校全体での個人探究の推進を通じた児童と教員の認識の変容

著者名：豊田大登, 北澤武

URL：<https://doi.org/10.15077/jjet.49033>